

活動名 ものづくり科学教室	団体名	日本宇宙少年団 周南分団
	地域	山口県光市
	代表者	分団長 志水 慶一
	支援金額	10万円

活動概要

毎月一回の定例教室、地域イベントへの協賛(科学工作と展示)、日本ボーイスカウト活動協賛、美祢市の全校生 17 名の小学校へへの出前教室を行いました。定例教室は、毎回 3 時間、工作、実験、時には見学などが主体の“楽しく作って学ぶ”を基本方針とする体験学習です。小学生を主体とする子供たちと父兄・スタッフが一緒になっての活動です。毎回 40～60 名と一緒に活動しました。参加者は、自分の工具などを持参し、講師およびリーダーの指導に従い、工作、実験を行います。毎回、新しいテーマですので、約 10 名のスタッフも生き生き、子供たちも楽しい活動となりました。工作、実験に際しては、プリントの配布、安全に関する注意、工作、実験に関連した科学的な説明などを行います。創造力、向上心、協調性、思考力、自立心などを育成出来たものと考えております。

◆実施時期

毎月 1 回 原則第 3 日曜日 13 時～16 時
 定例会場：周南市久米公民館(左記以外：防府市マツダ工場、塩田公園、ソラル)

◆参加人数

総数 約 700 名(定例教室 550+その他 150 名)
 (子供 約 25 名 父兄 15 名 スタッフ 10 名 合計 50 名)
 定例教室 50×11 回+出前・協賛 50×3 回)

参加総人員：700 名



低温の不思議体験(液体窒素、ドライアイス)



水ロケットの製作



ヘロンの噴水の製作



マツダ防府工場見学後のお礼の挨拶

◆実施に伴う効果

- ・活動内容が広く知られるようになり、思いがけないところからも声を掛けられるようになった。
例：遠方の綾木小学校、地域コミュニティ、日本ボーイスカウト連盟、山口維新プロジェクト
- ・また、平成 25 年度においても、企業(イオンタウン)より地域貢献のため定期的に科学教室を開催してほしいとの要請があり検討中。

◆苦勞した点

2012 年度は、活動を始めて 4 年目でした。地域の多くの方々にも知っていただき、協力が得られることも多く順調に活動することが出来ました。

ただ以下の 3 点に少しですが苦勞致しました。

- ①参加登録者は、年々着実に増加していますが、指導するスタッフの新規加入が殆どなく、毎年、平均年齢が増えるばかりです。色んなチャンネルを通して募集していますが集まりません。次年度は、大人の科学教室を開催し、スタッフ増員の機会に出来ればと考えております。
- ②参加登録者が多くなったため、定員オーバーのこともあります。どのように優先順位をつけて参加者を決めるか思案するところです。参加者は、低学年は 1 年生から参加していますが、6 年生、中学生も居る中で、説明の仕方に苦勞するところです。また、安全と交流のため名札着用を義務付けていますが、忘れる者も多く、名前を覚えるのに苦勞しています。
- ③毎回、新しいテーマで活動することを方針としています。計算上、過去 4 年間で 48 テーマとなります。新規テーマで実施するのは、スタッフのモチベーション維持、アップのためと考えておりますが、新規テーマの設定は苦勞するところです。

◆今後の課題・発展の方向性

- ・周南地区には、私どもの“ものづくり科学教室”のような内容で、定期的、継続的な活動は見受けられません。当方の活動も、次年度は 5 年目となりますが、本活動を将来に亘り周南の地に根付いた活動にしたいと考えております。そのためには、産官学ならびに一般市民に協力者、賛同者を増やし、基盤作りを進めたいと考えております。
- ・まずは、スタッフの増員が課題であり、地域活動にも注力し活動の PR を行うとともに、企業、学校、行政などに働きかけたいと考えております。
- ・また、定例活動が魅力的であることが基本であり、新規な、新鮮なテーマの実施を目指したいと思えます。
- ・継続のためには、予算の手当てが不可欠であり、毎年予算を心配することなく活動に取り組めることが一つの願いです。

◆活動を終えての感想・意見等

一番の気掛かりは安全であり、事故なく一年を終えられてほっとしています。今後とも危険と感じた時は躊躇することなく注意・対応することを心掛けたいと思えます。

口コミでの新規参加者も多かったこと、思いがけない所から出前教室の依頼があったことなどから、多くの方に知られ、活動が評価されるようになったと喜んでおります。

毎月、定例教室を実施することは特に準備が大変ですが、子供たちと父兄の目の輝きが活動のエネルギーになったと思えます。

次年度も子供たちの目が輝く活動を実施したいと思います。